

## ネットや IT を駆使し地方から日本の縫製業の再生を目指す

合同会社ヴァレイ 奈良県上牧町

### ■衰退する日本の縫製業を地方から再生させる

経済産業省によると、国内のアパレル市場規模はこの15年間で15兆円から10兆円へと約3分の2に縮小し、繊維事業所数は約4分の1に減少した。輸入浸透率（輸入品の占める割合）は数量ベースで97%にも達している。国内アパレル業界は製造から販売までに多くの中間業者を経る複雑な構造のため、縫製工場加工賃の減少、商品価格の上昇、国内製造の空洞化という悪循環を繰り返してきた。

こうした衰退の一途を辿る日本の服作り（縫製業）を地方から再生させようと、『合同会社ヴァレイ』では、インターネットやITを駆使して縫製工場と小売業者や消費者を直接つなぐことで流通構造を単純化し、縫製工場の加工賃を引き上げながら日本製商品を高品質・低価格で提供する仕組みの構築に取り組んでいる。

### ■ネットや IT を駆使した柔軟な小ロット短納期対応

同社代表の谷英希<sup>ひでき</sup>氏（28歳）は母親が40年近く前から経営する「モードシスター」という縫製工場に生まれた。テレビドラマの演出や俳優業などを経て豪州留学から帰国した25歳の時、実家の工場が職人高齢化と加工賃低下で衰退している姿に衝撃を受け、「日本の服作りを元気にしたい」と同じ場所で2016年1月にヴァレイを開設した。

同社はインターネット経由での受注をベースとし、小ロット短納期対応を軸に、一点物から100枚以上の大口縫製まで、需要に応じた適時適量生産スタイルを特徴とする。変動する需要への柔軟な対応を可能にしたのが、現在約40か所存在する同社の「協力工場」のネットワーク。オリジナルの生産管理システムなどのITやSNS等も駆使し、自社を含む適切な工場への作業の割り振りと細かい進捗管理を行う。谷代表が英語に堪能なことを活かし海外からの注文も直接受け付けている。

### ■地域が経済的に潤う仕組みの構築を目指す

現在ヴァレイとモードシスターはグループとして一体運営されており、1964年の東京五輪日本選手団のブレザーを縫製した80代の職人から、日本技能五輪受賞者を含む多数の熟練縫製士、そして20代の若手まで層の厚いスタッフが在籍。ヴァレイだけで創業後10名の新規雇用を生んでおり、縫製技能の若手への継承の場としても機能している。

また同社では、自社で経験を積んだ若手職人を順次独立させ、地域に根ざす小規模工場のネットワーク化をさらに進めていく構想も持っている。

こうした同社のビジネスプランへの評価は高く、17年2月に奈良県主催「ビジコン奈良2017」の最優秀賞（知事賞）を受賞。また奈良市主催の起業家育成事業「奈良スタープロジェクト」にも選定され18年2月に成果発表を行った。

「アパレル業界全体の構造を大きく変えることは無理でも、少なくとも地域やコミュニティで我々を取り巻く人々が経済的に潤う仕組みを作りたい」と語る谷代表。地域に根付いて人々や顧客と交流し、日本の服作りを奈良から世界に届けていきたいという。

（吉村謙一、太田宜志）



顧客との交流拠点として自社1階に18年1月に開設した直営店舗『M's (ミス)』（左）。多世代が仲良く働く活気あふれる社内（右）。



谷 英希 代表

### 合同会社ヴァレイ

〒639-0202

奈良県北葛城郡上牧町桜ヶ丘1-8-5

桜井ビル2-C

TEL: 0745-31-5156

FAX: 0742-90-1116

URL: <http://www.valleymode.com/>